

プレスリリース

2023年11月27日
国境なき医師団 (MSF)

ウクライナ：繰り返される病院への攻撃 医療スタッフと建物に甚大な被害

ウクライナ東部のドネツク州セリドーブの病院に 11 月 20 日、2 発のミサイルが直撃した。当時病院にいた国境なき医師団 (MSF) のスタッフ 5 人にけがはなかったが、保健省の職員 2 人を含む 8 人が負傷した。その後、ミサイルによって崩壊した病院のがれきから遺体が見つかり、3 人の死亡が報告された。1 週間前の 11 月 13 日には、MSF が活動する南部ヘルソン州の病院も攻撃を受け、保健省の職員 1 人が死亡した。MSF は 1 週間で 2 度も起きた病院への攻撃を非難し、医療施設の保護を改めて呼びかけている。

ミサイルが直撃

当時現場にいた MSF の救急車運転手、アルテム・トレチャコフは、「午後 11 時半ごろ、爆発音が最初は遠くから聞こえ始め、次第に近づいてきたと思ったら、突然ミサイルが私やほかの MSF スタッフがいる部屋を直撃しました。部屋の角に当たったので、私たちは助かりました」と振り返る。

MSF のチームは攻撃の直後に、病院内で負傷者の応急処置を開始。さらなる支援のため、集中治療救急車と緊急対応チームもセリドーブの病院に向かった。

MSF の医師、エブゲニア・ミティアエバは、「病院敷地内の照明はすべて消えていました。私たちは廊下を進み援助が必要な人がいないか尋ね、懐中電灯や携帯電話のライトを使い、ひとまず包帯を巻いて応急処置をしました。80 歳の男性患者が、爆発で割れた窓ガラスで複数の傷を負い重体でした。初期治療の後、さらに治療を続けるために救急車で別の病院に搬送しました」と、当時の様子を説明する。

病院も救急車も被害に

セリドーブでは、病院に加え、2 台の救急車も被害を受けた。救急車は、2022 年 5 月以来 1 万 600 人以上の患者搬送を担い、その大半は紛争の影響による外傷患者だった。トレチャコフによると、爆風でガラスは割れたものの車両は機能しており、再稼働できる可能性はある。

一方、11 月 13 日、MSF が活動するヘルソン州の病院が砲撃の標的となり、窓ガラス 150 枚が破壊され、救急部門が大きな被害を受けた。保健省の職員 1 人が死亡し、3 人が負傷した。

医療施設を「命を救う場所」に

MSF のウクライナ現地活動責任者、ピンチエンツォ・ポルピーリアは、「MSF は悲劇的な被害を引き起こした、病院に対する攻撃を断固非難します。このような攻撃は、医療スタッフの命を危険にさらし、患者に医療を提供する私たちの能力を危険にさらしています。医療施設は命を奪う場所ではなく、命を救う場所であるべきです」

今回攻撃を受けた病院での活動は、治安の悪化と建物への甚大な被害により、一時的に中断せざるを得なくなった。しかし、救急車で搬送による援助継続を約束し、ドネツク州とヘルソン州の他の病院でも、救急外来や外科治療に関わる活動を継続するとともに、医療サービスへのアクセスが制限されている前線に近い地域での移動診療を実施している。

MSF は、ウクライナのドネツク州とヘルソン州にある保健省の 4 つの病院の救急部門で活動している。2022 年 8 月にコスチャンティニウカの病院の援助を開始し、救急部門の活動と外科治療を行った。その後、2023 年 7 月にセリドーブの病院、9 月と 10 月にヘルソン州の 2 つの病院に活動を拡大した。

これらの病院の救急部門の援助を開始して以来、2023 年 10 月末までで MSF は合計 3078 人の救急外来患者を受け入れたが、その 78%は暴力による外傷の患者だった。また、2022 年 5 月から 2023 年 11 月 20 日まででドネツク州とヘルソン州で救急車を運行し、1 万 613 人の患者を搬送した。

ドネツク州やヘルソン州など、戦闘の影響を大きく受けた地域では、医療従事者の不足や医療施設の破壊で、人びとの医療へのアクセスが著しく妨げられている。MSF は、移動診療所を通じて、これらの地域に今なお居住している高齢者を多く含む人びとの基本的な医療の継続性を確保。MSF は 2023 年にこれらの移動診療所を通じて、6 万 2000 件以上の診察を行った。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2277-6819

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X(旧ツイッター)アカウント：@MSFJ_Press